

2019春季生活闘争ファイティングフォーラムを開催！

クラシノソコアゲ応援団！

◎ 2019春季生活闘争ファイティングフォーラム

- ・と き：2019年3月6日（水）18：00～
- ・と ころ：秋田テルサ（秋田市御所野）・参加者：300人



○ 主催者挨拶：連合秋田・黒崎 保樹 会長



2019春季生活闘争の状況について「中央大手は、3月13日のヤマ場での決着に向け交渉を強化しているが、会社側は賃金改善の必要性は認識しつつも慎重な判断が必要であると主張しており、厳しい状況となっている。このような状況において県内でどう取り組むのか。人口減少に伴う深刻な労働力不足、事業承継の課題、働き方改革への対応、外国人労働者やシルバー人材の就労拡大の動き等、秋田を取り巻く環境における課題を改善する足掛かりとなるのが今年の春季生活闘争である。

すべての働く者の処遇改善となるよう、最後まで共にがんばろう。」と挨拶した。

○ 労働局挨拶：連合秋田・近藤 洋二 副局長

「2019春季生活闘争は、賃金の引き上げとすべての労働者の立場にたった働き方の実現を同時に推し進めていくことを方針に掲げている。情報共有や共闘強化の観点から、集会への参加や中小共闘センター会議への積極的な出席をお願いしたい。春季生活闘争の取り組みを地域社会に発信し、機運を高めていきたい。多くの課題が山積しているが、課題解決に向けて粘り強く闘い抜こう。」と挨拶した。



○ 提起：「連合秋田2019春季生活闘争情勢報告」



連合秋田
藤井 真悟 事務局長

冒頭、「このファイティングフォーラムは春季生活闘争の勝利に向けて、構成組織全体の意思結集の場である。働く人すべてを対象とした取り組みでもあり、社会に波及させていく必要がある。その取り組みを社会にアピールする場である。」と集会の目的を再確認した。

その後、長時間労働是正に向けた連合の「Action!36」の取り組みなど、社会への発信力強化の重要性を訴えた。また、経済情勢に触れ「1月には景気拡大が戦後最長となったが全く実感を伴っていない、海外の動向からも今後の景気不透明感を増す。経済の自律的成長には月例賃金の引き上げが重要となる。あらゆるチャンネルを使いながら社会に発信していく。」と2019春季生活闘争の情勢報告を行った。

○ 構成組織からの状況報告・決意表明

構成組織を代表して、情報産業の立場から情報労連秋田県協議会の高橋事務局次長、公務職場の立場から自治労秋田県本部の佐藤書記長、ものづくり産業の立場から自動車総連秋田地方協議会の保坂事務局より、2019春季生活闘争に臨んでの状況報告と力強い決意表明をいただいた。



情報労連秋田県協議会
高橋 謙介 事務局次長



自治労秋田県本部
佐藤 学 書記長



自動車総連秋田地方協議会
保坂 元 事務局長

○ アピール採択、団結がんばろう！

連合秋田中央地域協議会の藤原和功副事務局長より「『働くことを軸とする安心社会』の実現に向けて、連合秋田の総力を結集し、最後の最後まで共に闘おう！」とするアピールが提案され、満場の拍手で採択された。

最後に中央地域協議会・水木卓議長の「団結がんばろう！」で勝利に向け取り組むことを確認した。



中央地域協議会
藤原 和功 副事務局長



アピールを採択！



中央地域協議会
水木 卓 議長

◎ 2019春季生活闘争秋田県第1次統一行動

☆各地域集会開催状況 全県で640名の仲間が結集！

| | | | |
|--------------|---------------|--------------------------|--------|
| 連合秋田 中央地協 | 3月6日(水) 18:00 | 秋田テルサ | 300名参加 |
| | | 「2019春季生活闘争ファイティングフォーラム」 | |
| 大館地協 | 3月6日(水) 18:00 | 大館労働福祉会館 | 40名参加 |
| 鹿角地連 | 3月6日(水) 18:00 | 鹿角市交流センター | 25名参加 |
| 能代地協 | 3月6日(水) 18:00 | 能代市商工会館 | 40名参加 |
| 男鹿地連 | 3月6日(水) 18:30 | 男鹿地連事務所 | 15名参加 |
| 本荘地協 | 3月6日(水) 18:00 | 本荘由利労働会館 | 50名参加 |
| 大曲地協 | 3月6日(水) 18:30 | 仙北教育会館 | 50名参加 |
| 横手湯沢地協 | 3月6日(水) 18:30 | サンサン横手 | 120名参加 |

「3. 8国際女性デー」街宣行動を展開!

3月6日(水)秋田市駅前大屋根下(フォンテAKITA、アゴラ広場前)において、女性委員会と構成組織女性組合員合わせて20名のご協力をいただき、「3.8国際女性デー」の取り組みとして、街宣行動・カーネーションの花を配布しました。用意した700本のカーネーションは、1時間を経たずして配布を終了するなど好評の取り組みでした。

「3.8国際女性デー」の起源は、今から約160年前の1857年にニューヨークで起きた工場火災で多くの女性たちが亡くなったことに端を発して、低賃金・長時間労働に抗議する集会が3月8日に開かれました。その後、この日は女性たちの政治的自由と平等のために闘う記念日と位置づけられるようになり、1975年以来、国連の「国際女性デー」として賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳・人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、今も世界各国で様々な行動が展開されています。連合も1996年から、春季生活闘争の中に国際女性デーの行動を位置づけて、全国の仲間とともにこの行動に取り組んでいます。

なお、同日開催の2019春季生活闘争ファイティングフォーラムで「3.8国際女性デー」に関するアピールを女性委員会の今野悦子委員長が提案を行い、満場の拍手で採択されました。



黒崎 保樹 連合秋田会長



国際女性デーの意義を
参加者全員で再確認



テレビ取材の中カーネーションを
配布する参加者



大場 由美子 女性委員会幹事



アピールを読み上げる
今野 悦子 女性委員会委員長



ご参加いただいた女性委員会役員と女性組合員のみなさん



パンは賃金・労働条件の
向上を表すシンボルです